

広島市感染症週報

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

■コメント

1 インフルエンザ

定点当たり3.86人の報告があり、減少が続いています。新学期が始まると、報告数が増加傾向になることがあります。引き続き、手洗い、咳エチケット、適度な湿度の保持、換気などの感染予防対策を徹底しましょう。

2 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

定点当たり2.51人の報告があり、前週と比べてやや増加しました。全国でも、減少速度が鈍化しており、注意が必要です。引き続き、基本的な感染予防対策に取り組みましょう。

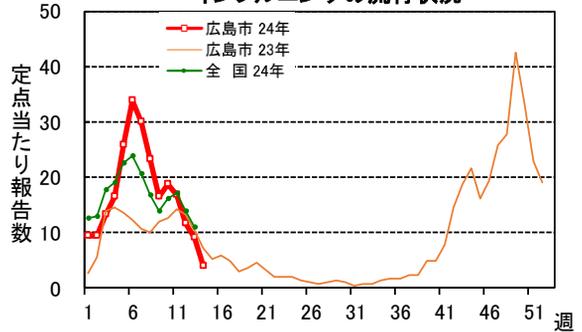
3 RSウイルス感染症

定点当たり1.14人の報告がありました。(次ページ参照)

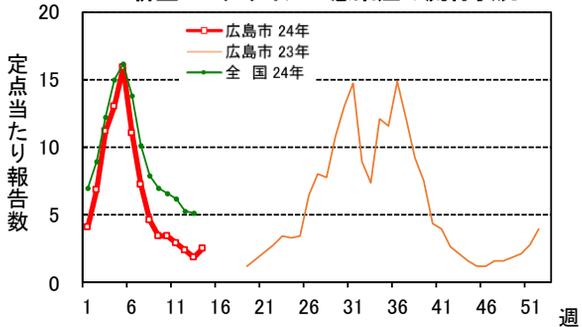
4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり3.09人の報告があり、前週と比べてやや減少しましたが、多い状況が続いています。感染経路は、飛沫感染や接触感染で、2~5日の潜伏期を経て、突然の発熱、のどの痛み、全身倦怠感、莓舌などの症状が現れます。咳エチケットの励行や手洗いなどの感染予防対策を心がけましょう。

インフルエンザの流行状況



新型コロナウイルス感染症の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号
インフル	インフルエンザ	135	3.86	1.71	↓	小児科	ヘルパンギーナ	1	0.05	0.07	
	新型コロナ(COVID-19)	88	2.51		↔		流行性耳下腺炎	-	-	0.05	
小児科	RSウイルス感染症	25	1.14	0.16	↔	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	咽頭結膜熱	12	0.55	0.15	↔		流行性角結膜炎	4	0.50	0.48	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	68	3.09	0.86	↔	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	102	4.64	3.62	↔		無菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	水痘	3	0.14	0.25			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.11	
	手足口病	4	0.18	0.12			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	0.12			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.26	
	突発性発しん	3	0.14	0.24							

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)	35
小児科定点数	22
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	21	70歳代、80歳代・市外
4	レジオネラ症	1	5	70歳代
5	梅毒	1	38	60歳代

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	報告地	週	インフルエンザ	新型コロナウイルス (COVID-19)	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎	
			広島市	第10週	678	122	12	19	81	174	1	11	-	5	-	-	-	9	-	-	-	-	-
広島市	第11週	602	106	12	16	68	198	-	9	-	6	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	1	-
広島市	第12週	420	83	16	9	74	113	3	3	-	7	1	-	-	6	-	-	-	1	-	-	-	-
広島市	第13週	333	67	27	20	83	136	2	11	-	9	1	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-
広島市	第14週	135	88	25	12	68	102	3	4	-	3	1	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
全国	第10週	18.83	3.39	0.52	0.83	3.52	7.57	0.04	0.48	-	0.22	-	-	-	1.13	-	-	-	-	-	-	-	-
全国	第11週	16.72	2.94	0.52	0.70	2.96	8.61	-	0.39	-	0.26	-	0.04	-	0.38	-	-	-	-	-	-	0.14	-
全国	第12週	11.67	2.31	0.70	0.39	3.22	4.91	0.13	0.13	-	0.30	0.04	-	-	0.75	-	-	-	0.14	-	-	-	-
全国	第13週	9.25	1.86	1.17	0.87	3.61	5.91	0.09	0.48	-	0.39	0.04	-	-	0.63	-	-	-	-	-	-	-	-
全国	第14週	3.86	2.51	1.14	0.55	3.09	4.64	0.14	0.18	-	0.14	0.05	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-
全国	第12週	14.08	5.21	0.58	0.70	3.67	4.28	0.13	0.17	0.02	0.21	0.02	0.03	0.01	0.42	0.02	0.03	0.08	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02
全国	第13週	11.18	5.10	0.80	0.63	3.57	4.11	0.13	0.19	0.03	0.22	0.02	0.03	0.01	0.51	0.02	0.01	0.09	-	-	-	0.01	0.01

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	発熱	10	2024/03/14	鼻汁	B型インフルエンザウイルス(ビクテリア系統)
インフルエンザ	発熱(38.5°C) 鼻炎	不明	2024/03/14	鼻汁	B型インフルエンザウイルス(ビクテリア系統)
RSウイルス感染症	発熱(39.5°C) 水疱 口内炎 咽頭炎 気管支炎 鼻炎 中耳炎	2	2024/02/25	咽頭拭い液 口唇・口腔拭い液	単純ヘルペスウイルス1型 ヒトヘルペスウイルス6型
その他の神経系疾患	発熱(39.6°C) 髄膜炎 項部硬直 頭痛 意識障害	12	2024/02/26	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス7型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

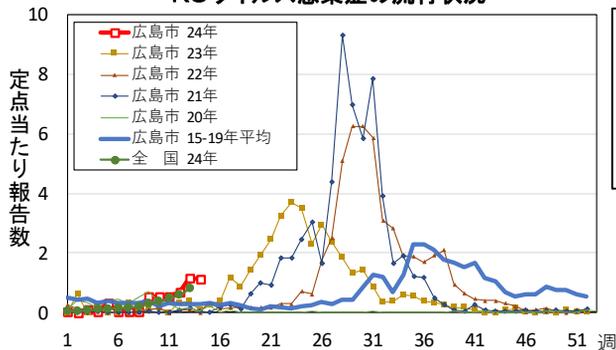
【参考】RSウイルス感染症について

RSウイルス感染症は、RSウイルスの感染による呼吸器の感染症です。生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の小児が少なくとも1度は感染すると言われています。感染経路は接触感染と飛沫感染で、潜伏期間は2~8日(典型的には4~6日)です。生涯にわたって感染を繰り返し、症状は発熱、鼻汁などの軽い風邪様症状から重い肺炎まで様々です。多くは軽症で自然軽快しますが、生後6か月以内の乳児などの重症化リスクが高い方は、細気管支炎や肺炎などを起こし重症化することもあります。

以前は夏から増加し秋にピークがみられていましたが、2021年以降は流行時期が早くなる傾向があります。特に今年は、3月から増加傾向が見られており注意が必要です。

感染を予防するには、おもちゃや手すりなど手の触れる部分のアルコールや塩素系消毒剤などでの消毒、流水・石鹸による手洗いや咳エチケットが大切です。

RSウイルス感染症の流行状況



RSウイルス感染症の重症化リスクが高い方

- ・生後6か月以内の乳児
- ・早産児や生後24か月以下で心肺に基礎疾患を有する小児
- ・神経・筋疾患又は免疫不全の基礎疾患を有する小児
- ・慢性呼吸器疾患などの基礎疾患を有する高齢者

【参考】RSウイルス感染症Q&A(厚生労働省)
https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>



【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
 TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp